

コミュニティ参画および発展

社会とともに。地域社会との関わりを通してともに発展することをめざします。

社員による社会貢献活動

資生堂グループの社員による社会貢献活動は、グループ全体で行っている「未来椿活動」と日本で展開している「社会貢献くらぶ」を柱としています。

未来椿活動は、創業140周年にあたる2012年度から、全世界の資生堂グループ社員が取り組んでいる社会貢献活動です。これまでの資生堂の歩みを支えていただいたお客さまや社会に対して、社員が立案・計画した活動を実践することで、感謝の気持ちを還元していきます。

社会貢献くらぶは、「社会のために何かしたい」と考える社員のために、社員一人ひとりの環境や都合に合わせて選べる活動プログラムを提供することで、社会参画の機会を創出しています。

未来椿活動

未来椿活動は2016年度までに、世界130の事業所で1,145件の活動を行いました。

活動した社員からは、「地域の皆さまと協力して街をきれいにすることで地域に貢献しているという充実感を得るとともに、想いを共有する皆さまとの出会いやふれあいの大切さをとて素敵なものだと感じた」「短時間で集中して同じ活動に取り組み、メンバー間で自然と結束力が生まれた」など、地域社会との絆や社員同士の結束力の強化につながっています。

資生堂は、未永くお客さまや社会とつながっていくために、今後も未来椿活動を継続していきます。

日本での取り組み

ハンドケア・タッチケアで癒しをお届け ～がん患者支援活動～

CSR部では、相手の手や背中に優しく触れてさすることで癒しをお届けする「ハンドケア」・「タッチケア」の活動に取り組んでいます。

2016年は、9月3～4日に東京の駒沢オリンピック公園で開催された、がん征圧を目指すチャリティーウォークイベント「リレー・フォー・ライフ」の会場で活動を行いました。

参加メンバーは事前練習を重ね、当日は2日間で14名のメンバーが、24時間夜通しのウォークで歩き疲れたがん患者や家族の皆さんなどのべ90名の方々に、心を込めた癒しのタッチをお届けしました。

参加された方からは、「とても気持ちが良かった。家族にもしてあげようと思う。」「小さいころに母になでてもらったことを思い出した。」など、多くのお喜びの声をいただきました。

2日間とも日差しが強い暑い中での活動でしたが、ケアを受けながら寝入ってしまう方、涙ぐまれる方など、心身ともにリラックスしていただき、私たちにとっても、胸の熱くなる、とても充実したひと時でした。これからも、さまざまな機会を通じて、多くの方々に「癒しのタッチ」で笑顔になっていただきたいと思ひます！



小松わくわく教室に今年も参加！

大阪工場の社員13名は、近隣の小松小学校で開催された「小松わくわく教室」に、「化粧品づくり教室」と「音楽教室」の講師として参加しました。

この教室は、小学生の子どもたちがさまざまな体験を通じて、思いやりや豊かな心を育てること、また、地域の方々と触れ合うことで、地域の一員である自覚や社会参加への意識を高めることを目的としています。

活動を通じ、子どもたちが化粧品づくりに真剣に取り組む様子を見て、未来のお客さまに興味を持っていただける貴重な機会であることを実感しました。



トレードマークは緑のバンダナ！銀座花壇ボランティア活動

品質保証部は2012年より中央区緑のアダプト活動へ参加し、銀座の3カ所の花壇管理に取り組んでいます。32名のメンバーで、毎日の水やりに加え、年4回季節毎に花壇の草花の植え替えを行っています。

5月には3カ所の花壇で夏の草花「インパチェンス」「ベゴニア」の植え替えを実施しました。夏は毎日の水やりが必要で、2人一組になり花壇に出向き、清掃もしています。

ボランティア活動も5年目に突入し、最近は植え替えの時に花がしっかりと根付くような工夫を凝らすなど、私達の花に対する想いも年々増しています。



高校の卒業記念に！テーブルマナー講習を実施

資生堂パーラーでは多くの方に食文化のすばらしさを伝えることを目的に、テーブルマナー教室を継続実施しています。

2016年は葛飾ろう学校高等部の生徒さんに、フランス料理のテーブルマナー講習と食育授業を実施しました。

当日は銀座本店のスタッフ4名と広報担当が参加し、卒業を控えた高校3年生20名の方々に、楽しく正しいマナーを身につけていただくことを目的に、フルコースの美食・食育クイズ・テーブルマナー講習を3時間半かけて行いました。

参加した生徒さんからは、「なんとかきちんとした食べ方が出来たので嬉しかった。」「社会に出た時に恥をかかない為にも、レストランに行く機会に今回学んだ事を活かしたい。」など、とても充実した時間だったことが伺える感想が寄せられました。



アジア・オセアニアでの取り組み

一人ひとりへのアドバイスで充実感アップ！高齢者施設での美容セミナー

台湾資生堂は、資生堂ライフクオリティービューティーセミナーを社会貢献活動の柱として進めており、年間約40件以上のセミナーを開催しています。

2016年4月8日には、高齢者施設の21名の女性のみなさんに、スキンケアとメイクアップの実践をとおして、化粧の楽しさを体感いただきました。

最後まで笑いのたえない温かい雰囲気の中、参加社員10名は夢中で活動し、参加のみなさんそれぞれに合ったアドバイスをメモに残し、セミナー後も役立てていただくようにしました。

またビデオ通話サービス会社と協働し、参加者はリアルタイムでビデオの向こうの家族に感想を伝えるなど楽しく交流しました。



アメリカ・ヨーロッパでの取り組み

白血病・リンパ腫協会の活動を支援

白血病・リンパ腫協会（LLS）は、白血病やリンパ腫、多発性骨髄腫の治療および、患者とその家族の「生活の質の向上」を目的に、1949年以来、血液がん研究の資金や患者サービスを提供するために活動している非営利組織です。

ゾートスインターナショナルの社員は、この協会の活動を継続的に支援しており、寄付金集めのために開催される様々なイベントの準備・運営などのボランティアとして活動を行っています。

10月は仮装姿で楽しく活動に取り組みました。



社会貢献くらぶ

「社会貢献くらぶ」は、2005年に発足した国内の社員が手軽に社会貢献活動に参加できる資生堂独自の組織です。

「資生堂 花椿基金」をはじめ、「集めてボランティア」「TFT (TABLE FOR TWO)」「ボランティアメニュー」など、さまざまな活動プログラムやサポート制度を設けています。

「一人ひとりが社会問題解決の視点を持ち、自ら考え行動する」風土をつくるとともに、社員の社会参画と視野の広がりを後押ししています。

資生堂 花椿基金

「資生堂 花椿基金」は、資生堂グループ社員と社友による寄付金を通じた社会貢献活動です。みんなで少しずつお金を出し合い、社会課題に取り組むNPOやNGO団体の活動を支援しています。趣旨に賛同した資生堂グループ社員は、毎月の給与から1口100円の積み立てを行い参加しています。

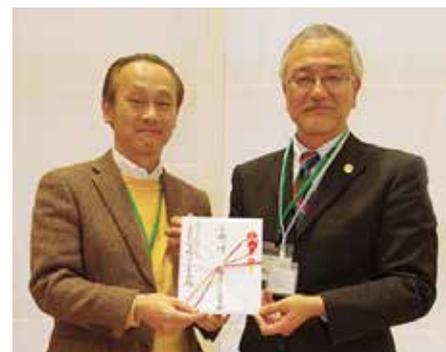
退職した社友は、一口1,000円から振込みにて参加しています。

運営は、有志の社員による「運営委員」によって行われています。運営委員は、社内広報を担当するとともに、支援団体との交流を通じてその支援内容や寄付金の活用状況について情報収集を行います。毎年開催される運営委員会では、運営についての意見交換に加え、各団体の支援内容の評価や新規支援団体の選出も実施しています。

2005年の創立以来、総額250,352,118円（05～16年度）を寄付金支援団体へお届けしています。

また、世界中で発生した災害に対しても災害義援金として、総額59,286,960円を被災地にお届けしました。

社員一人ひとりの気持ちが、大きな力となって確実に社会の力になっています。



2016年度花椿基金寄付金贈呈式
JHP・学校をつくる会の和田さま(右側)に目録贈呈



支援団体と運営委員の交流報告会
日本対がん協会の坂野さまのプレゼンテーション

2017年度 花椿基金 2017年度花椿基金支援内容 PICKUP

 <p>女性・子ども</p>	<p>DV被害の根絶活動と被害女性・母子の保護、再出発を支援</p> <p>特定非営利活動法人 全国女性シェルターネット</p>	 <p>次世代育成</p>	<p>子育て支援・児童養護施設の児童と里子の進学支援</p> <p>公益財団法人 資生堂社会福祉事業財団</p>
 <p>次世代育成</p>	<p>紫外線に当たることができない難病XP患者の生活のサポート</p> <p>全国色素性乾皮症 (XP) 連絡会</p>	 <p>環境</p>	<p>30年間で半減したスマトラ島の森林再生と生物多様性の保全</p> <p>公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン (WWFジャパン)</p>
 <p>女性・子ども</p>	<p>5歳まで生きられないミャンマーの子どもを救うために</p> <p>公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン</p>	 <p>環境</p>	<p>未来の子どもたちに、イヌワシの舞う美しい日本の森を贈る</p> <p>公益財団法人 日本自然保護協会</p>
 <p>災害復興支援</p>	<p>東日本大震災被災地の復興を継続支援</p> <p>特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム</p>	 <p>次世代育成</p>	<p>カンボジアの子どもたちの未来のために、安全な校舎とトイレを</p> <p>特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会</p>
 <p>女性・子ども</p>	<p>命がけで赤ちゃんを産むザンビアのお母さんの命を救う</p> <p>公益財団法人 ジョイセフ</p>	 <p>健康</p>	<p>がん検診の普及による早期発見で、がんに負けない社会を</p> <p>公益財団法人 日本対がん協会</p>

TOPICS: 2017年度の支援団体が決定しました

2016年9月26日（月）に、花椿基金運営委員会を汐留オフィスで開催し、2017年度の支援団体を決定しました。

■ 2017年花椿基金支援団体一覧（10団体）

1. 全国女性シェルターネット
2. 資生堂社会福祉事業財団
3. 全国色素性乾皮症（XP）連絡会
4. 世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）
5. セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
6. 日本自然保護協会
7. ジャパン・プラットフォーム
8. ジョイセフ
9. JHP・学校をつくる会
10. 日本対がん協会 →2017年度から新たに支援開始



運営委員会の様子

TOPICS: 13年目…資生堂日焼け止め商品で、「XP」患者支援

2017年3月、色素性乾皮症（XP）患者92名の方に、資生堂グループの日焼け止め商品「アネッサ」「ドゥーエ」、「サンメディック」「アベンヌ」を提供しました。

色素性乾皮症（XP）は、遺伝子の損傷を修復する機能障がいのために、強い日光過敏や神経症状を発症する進行性の難病です。XP患者は、紫外線を受けた部分が早期にがん化する恐れがあるため、肌に日焼け止めを塗った上に紫外線防御服も着用する必要があります。

資生堂は2005年より、花椿基金の支援先である「全国色素性乾皮症（XP）連絡会」を通じ、年に1回、XP患者の方々へご希望の商品をお届けしており、今年で13年目を迎えました。

患者のご家族からは、「日焼け止め商品は、1年を通じ、XPの子どもたちの敏感な肌を紫外線や皮膚がんの発病から守ってくれるとても重要な必需品です。御社の商品を安心して子どもたちに使用させていただけますこと、心より感謝申し上げます。皆さまからの温かいご支援に感謝し、子どもたちとの日々を大切に過ごしてまいります」との感謝の声をいただきました。

※資生堂は社会貢献活動の一環として、2000年よりXP患者の方々に対する支援活動を開始し、患者ご家族を対象とするセミナー（日焼け止め商品の使用方法）や、社員ボランティアによるXP患児の保育活動、花椿基金支援による全国大会の開催など、さまざまな支援活動を行っています。



TOPICS: 難病XP患者の子どもたちに社員から心ばかりのプレゼント ～紫外線セミナーなど社会貢献活動を実施～

2016年10月15、16日の2日間、全国色素性乾皮症（XP）連絡会第3回全国大会が、愛知県「あいち健康プラザ」で開催されました。資生堂グループからは10名の社員が参加して、

- (1)ビューティーカウンセラーによる
日焼け止め商品の使い方や悩みの相談
- (2)サンケア製品開発の研究員による
「紫外線の肌への影響と日焼け止めの最新知見」の講演
- (3)XP患者と兄弟児と一緒に遊ぶこと
などのボランティア活動を実施しました。

資生堂は社会貢献活動の一環として、紫外線の影響により高い確率で皮膚がんや進行性の神経障がいを伴う難病色素性乾皮症（XP）の患者への支援を2000年より開始し、2005年からは毎年、紫外線遮断のために不可欠な日焼け止め商品（アネッサ、ドゥーエ、サンメディック、アベンヌ等）を提供しています。
また、社員・社友による有志による「花椿基金」を通じた支援を継続しています。



中部支社お客さま担任による個別相談



サンケア製品開発の研究員による講演

「TABLE FOR TWO」の取り組み

TABLE FOR TWO、直訳すると「二人の食卓」。

先進国の私たちと開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越え食事を分かち合うというコンセプトで、対象となるヘルシーメニューを注文すると、1食分の給食が特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International（以下、TFT）を通じて開発途上国の子どもたちへ届けられる仕組みです。

資生堂ではTFTの主旨に賛同し、2009年7月より導入。2017年現在は、汐留オフィス、資生堂グローバルイノベーションセンターで継続実施しています。2016年8月には、TFT活動を通じて年間一定額を寄付しているとして「シルバーサポーター」の感謝状をいただきました。

日本国内では、企業や学校など約700団体がTFTに参加し、各団体とも、TFTメニューの開発や食堂利用者への告知方法などに趣向を凝らしているようです。このためTFT事務局ではその好事例の水平展開のために「TFT総選挙」というユニークなイベントを企画・実施しています。

2016年7月にTFT主催で開催された「第2回 TFT総選挙」において、資生堂は、「メニュー部門」で、「とろとろ卵のあさりあんオムライス」を応募。投票の結果、1位との票差がわずか1票という僅差で2位を獲得し、入賞の表彰状をいただきました。

開発途上国の子どもたちへの給食提供は、子どもたちの成育を助けるだけでなく、学ぶ楽しさの気づきや学ぶ意欲の継続への足がかりとなっています。食事をしながら社会貢献できるTFTへの支援をこれからも続けてまいります。



TFT事務局より頂戴した感謝状



総選挙メニュー部門第2位受賞

TOPICS: 保存食をおいしくアレンジ！「食」を通じて社会貢献

2015年11月26日（木）に、汐留オフィスの食堂委託会社である（株）LEOCのご協力のもと、賞味期限が残り1年未満の災害時用保存食を、TFTメニューとしてアレンジして提供する「保存食をおいしく食べようフェア」を開催しました。

災害発生に備えて保管している保存食は、賞味期限が迫ると入れ替えが必要になることから、資生堂では、「食料資源の有効活用」「環境への配慮」「社会貢献」を目的に、保存食活用に積極的に取り組んでいます。

7月に第1回のフェアを開催。5回目となる今回は、2種類の保存食メニューを143名の社員に提供しました。毎回おいしさにこだわり見た目にも楽しいメニューを用意し、途上国の子どもたちの給食支援につなげています。また、メニューを食べた社員には、家庭に備蓄している保存食にも応用してもらえるよう、メニューで使用した保存食とレシピのお土産を提供し、防災に対する意識啓発も図っています。

メニューを食べた社員からは、「保存食と分からないほどしっかり調理されていておいしかった」「早速レシピ通りつくってみたい」「食料の有効活用と寄付に協力できて嬉しい」などの声が寄せられました。また毎回新メニューを考案してくださる（株）LEOCの栄養士・大野さんからは、「試作を重ね、保存食のお米のぼそぼそ感をなくすよう工夫し、おいしく楽しんで召し上がっていただけるメニューを心がけました」との感想をいただきました。

累計喫食数は608食となり、総額12,160円をTFTの給食支援に寄付しました。

※保存食の一部は、フードバンクである「セカンド・ハーベスト」にも提供しており、児童養護施設の子どもたちやDV被害者のためのシェルターなどに届けられています。



保存食アレンジメニュー
「海老クリームリゾット温玉のせ」



お土産の保存食とレシピを提供

集めてボランティア活動

2005年度から全社的に使用済み切手や書き損じハガキを集め、途上国の女性と妊産婦を支援する活動や子どもたちの教育支援を行っています。

通年で活動し、夏・冬年2回のキャンペーンを実施しています。

集めた使用済み切手や書き損じハガキは、「公益財団法人 ジョイセフ」を通じて、途上国の再生自転車輸送費やお母さんと赤ちゃんの命を救う活動に、「公益財団法人 民際センター」を通じて、タイ・ラオス・カンボジア・ベトナム・ミャンマーの子どもたちのダルニー奨学金として役立てられています。



ソーシャルスタディーズデー

1993年から年間3日を上限に、社員の社会貢献を目的にしたさまざまな活動を「社会へ出勤する日」として業務扱いとする制度です。各種ボランティア活動、献血、ドナー登録、地域社会との交流などに利用されています。

災害支援活動

熊本地震の被災者に向けて社員有志から義援金贈呈

2016年4月に発生した熊本地震では、揺れの強かった熊本県、大分県を中心に九州地方の広い範囲に大きな被害をもたらしました。資生堂社会貢献くらぶでは、この災害の被災者に向けてグループ社員有志から寄せられた義援金（総額2,499,500円、支援賛同者3,444人）を、「認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）」に贈呈しました。

この義援金は、JPFの「九州地方広域災害被災者支援」のプログラムに沿って、特に高齢者、女性、子ども、障がい者などの災害弱者やジェンダーへの配慮を重視した支援活動に役立てられました。



認定NPO法人ジャパン・プラットフォームにて
寄贈



認定NPO法人ジャパン・プラットフォームからいた
だいた感謝状

ハリケーン・マシューの被災者に向けて社員有志から義援金贈呈

2016年10月「ハリケーン・マシュー」によって甚大な被害がもたらされた「ハイチ共和国」の被災者に向けて、資生堂社会貢献くらぶでは、グループ社員有志から寄せられた義援金（総額418,500円、支援賛同者837人）を、「認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）」に贈呈しました。

この義援金は、JPFの「ハリケーン・マシュー被災者支援2016」のプログラムに沿った、加盟NGOによる緊急支援物資（食糧や浄水用の塩素タブレット、脱水症対策の経口補水液などの衛生用品や生活物資）の配布などの人道支援活動に役立てられました。



認定NPO法人ジャパン・プラットフォームにて
寄贈



認定NPO法人ジャパン・プラットフォームからいた
だいた感謝状